

審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	第6回山口市総合計画策定協議会
開催日時	平成29年10月18日（水曜日）14:00～16:00
開催場所	防長苑 2階孔雀の間
公開・部分公開の区分	公開
出席者	田中委員、清水委員 ほか16名（全18名）
欠席者	加登田委員、船瀬委員、原委員、平尾委員、鶴委員、瀧本委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議事（別欄参照） 4 意見交換 5 その他 6 閉会
議事	<p>(1) これまでの協議について</p> <p>(2) 第二次山口市総合計画（素案）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基本構想 ②前期基本計画 <p>【会長】</p> <p>本日はお忙しい中、本協議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございました。これまでの策定協議会の協議を通じまして、皆様から様々なご意見やご提案をいただいた訳ですが、そういったものを含めまして、今回事務局が総合計画の素案というものを取りまとめまして、もう事前に配布されているかと思えます。この度の素案をもとにまた新たに追加すべき方向性や視点、あるいは具体的な取組、そういったものを委員の皆さんから意見をいただきながら、来年1月の最終案の策定に向けて、内容をこれから充実していこうということを考えております。</p> <p>本日は第二次山口市総合計画（素案）について、基本構想の部分と前期基本計画の部分の2点を中心にご協議いただく予定です。本日の次第をご覧ください。3番目に議事として、まずこれまでの協議についてということで第5回の概要、それから以降にいただいた意見書、それから中間整理についていただいた意見書、そういったものがこれまでの協議として取りまとめられています。</p> <p>その次に第二次山口市総合計画（素案）ですね。今回議論していただく部分ですが、これについて基本構想、素案策定に向けた中間整理以降の主な変更点。具体的には将来都市像であるとか、目指すまちの姿であるとか、目指すべき都市構造等について、ご説明をいただきます。そして、前期基本計画として、第6回総合計画策定協議会において今回検討の中心となる部分ですが、施策別計画、それから重点プロジェクト、そういった説明を最初にお聞きすると。その後に意見交換を行いたいと思えます。</p>

今回一応素案という形でご提案いただきますので、各委員さんにはだいたい一人5分くらいを目処にそれに対するご意見、コメント等を出していただければと思います。

議事（1）これまでの協議についてということで事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（1）これまでの協議について(資料1)について説明

【会長】

ありがとうございました。第5回協議会、それから第5回協議会以降に多くの意見をいただいております。かなりのボリュームがありますので、恐らくコンパクトにまとめてあるということではないかなと思います。何かこれについてご意見ありましたら、よろしいですか。

それでは今回の協議会の一番大きな課題です、第二次山口市総合計画（素案）ということで、挨拶でも申しましたが、素案のご意見、提案については、事務局に説明いただいた後、意見交換の時間をとっておりますので、その中で皆さま方に色々話を聞かせていただければと思います。

それでは説明をお願いします。

【事務局】

（2）第二次山口市総合計画（素案）(資料2)について説明

【会長】

ありがとうございました。基本構想、前期基本計画についてご説明いただきました。あまりにも膨大すぎて、頭がぼーっとするんですが、これから委員の皆さんのご意見を伺うわけですが、自分の関心のあるところで結構ですので、ご意見を出していただければと思います。前よりはポイントが絞られてきたというか、この総合計画の中でどこにポイントを置くのかっていう所、さっき29ページですか、3つのポイントがあると言われていました。そのあたりは色々絞ってこられたんじゃないか。内容は相変わらずすごく網羅的でちょっと大変ですが、でも個々のことでも結構ですし、全体的なことでも結構ですので、コメントをいただければと思います。

【A委員】

全体的にソフトの面ばかりで、こう見るんですが、多少はハードの面がやっぱりきちんと出ていないと。特にやはり道路公共交通っていうのがちょっと書いてありますが、現実的には公共交通なんかちょっとかなりどっちかと言うと悪い方向に向かっていますよね。例えば新山口から山口に行く交通を考えても現実的には、仮に東京から山口に来ると新幹線でせつかく新山口に来て、それからちょっと遅れが出たら2時間3時間って感じになっちゃうような現実になっていますが、そのことをご存知ですかね。現実的にですねやはり公共交通のこともかなり真剣に考えないと。中身をもうちょっと、列車を増やすっていうことは。もうちょっと

細々と施策を考えられないかなと思います。

【B委員】

「これが私のふるさとだ」という部分が平仮名になっていて、いつでも帰って来られる、やまぐちっていうこと、先ほど説明なさったのはとても共感が持てます。それと、子育てに関してですが、これは山口県全体がやっていることだと思えますが、新生児の検診などに関しても他の都市とはちょっと色んな聴力とかにしても他のところがやっていないところを山口市、山口県全体で見ても設備とかの面もあるので100%とは言ってないんだけど、そういうところももっとアピールしていけるってところも大事だと思いますし、シビックプライドというところもあります。自分たちがまちをつくって動かしているっていう、そういうのがすごく大切だということで、市民としての自覚も持てるようになったら、そういう政策が出てきたらいいなと思いました。

【C委員】

資料を読ませていただいて、大分、その全体が私も見えてきました。随分よくなってきているなと感じます。今日、一つ思うのが、重点プロジェクトのお話を聞きました。りんごの木のところの説明されました。非常に分かりやすくて、根っこの部分とりんごがなる部分ということで、プロジェクトのところ、りんごの部分ということで、りんごが大きくなってくれたらいいなとの思いですけど、その重点プロジェクトの33ページですが、ここに書いてある文言が小さなことなのか大きなことなのか、ちょっと考えたいなと思うのがですね、魅力あふれる県都づくり、これはまあ体言的な目で、その次の地域づくりも、それから将来を担う子どもたちを育む、とこれは動詞を使っている。語尾がばらばらで、起業するなら山口と。山口っていうのを2つ見つけたんですね。働くなら、起業するなら山口で。これぞ山口が一番いいんだみたいな。将来を担う子ども達を育む、その後、「教育・子育てなら山口」っていうふうに。それをりんごの木のところで見たとときに、一つ「教育・子育てなら山口」っていうふうに、あとは何とかのまち、何とかのまちっていうふうにそのプロジェクトの文言が整理されたほうがいいのか、このままがいいのかってというのが私の中で、ただの文字のあれなのか、それから「そうするなら山口」ってというのがそこにそのまま入っているのか、私は専門が保育と教育ですのでそういうふうな「教育をするなら山口だ」っていうようなことは非常に私は力を入れて訴えたいものなので、これはすごく嬉しいんですが、皆さんに出すときにそういうふうな一つの文言を揃えるほうがいいのか、そういう力関係がちょっとボリュームのほうがあるのかってところがちょっと気になりました。

それと教育、保育の身としては、重点プロジェクトの3を出していただいて、いま保育というのは特別に支援がいる子どもさんというのが非常に多くなってきているんですね。保育の現場でもそういうふうな扱いができる教育者、保育者を育てようということで学芸大も4年前からそういうふうなことを含めてそういう課

程を設けて資格を取るようにしているんですが、そこでニーズがすごく多いんですね。それがこの文言の中に特別支援というか、そういうふうな支援をしていく施策というのが、重点プロジェクトの中にもう少し入ってもらったらいいなってということと、施策のほうの子育てのところにも入れてほしいなという思いが私はしました。

それと重点プロジェクトの同じ3ですが、私一つ教育のほうでいつも思っているんですが、これは保育もそうなんですが教育の部分で小学校で地域格差がありますよね。というのが人数で都市部と市街部と、それから山間部と、南部でも少ないですね。コミュニティスクールとか色んな地域が面倒を見るとか、提携してやるとか、教育は非常にやっつけちゃいますけど、同じ世代での交流といいますか、もっと山間部の子と都市部の子を交流させるとか、だから夏休みには都市部の子が山間部に行ってキャンプとか自然を体験したり、それから逆に山間部の子は都市部に行って色んな意見交換とか同じテーマについて一緒に研究するとかですね。そういうふうな輸送が難しければ、移動手段がなければ、今ごろテレビ会議、テレビ電話みたいな、子どもは、ああいうITなんかが非常に進んでると思うんですけど、そういうものを入れる工夫とか、子どもも同世代の交流といいますか、同年代の交流っていいですか、そういうふうな社会性を育てるって両方の要素が要ると思うんですよね。教育でですね。そういうことをぜひ検討してほしい。そういう施策がどこかに入っていけばいいかなと私はいいかなと私自身は思っています。

それと大変小さなことかもしれませんが、40ページの自然と「智慧」や「学力」っていう智慧っていうのはやっぱり仏教用語のあの智慧のほうがよくいいんでしょうか。正しい判断を行うほうの「智慧」がいいのか、普通の「知恵」でもいいんじゃないかなって私はそういう気がしております。

それと重点プロジェクト6で、安全安心で美しい住環境とありますけど、美しいというのがありますが、快適とか豊かな環境とか、そういう言葉のほうか深いような意味があるなと思うんですが。以上です。

【D委員】

産業関係で申しますと、一点。いわゆる国力、地域力はそこのGDPであると思えます。これに関して、いまある資料の中の12ページ最初に、国際環境の中にGDPが出ております。そしてその下の産業・雇用構造の中の1行の中に女性の労働参加率の上昇というのがあります。また42ページには女性の労働参加率70%以上の目標というのがございます。あと一点、100ページから政策グループ4の中で、それぞれだいたい産業に区分された取組と最後に政策5の就労環境の充実が110ページにあります。ここに働き方改革などが書いてありますが、何が言いたいかといいますと、実を言うとGDPを守るために色々な施策、取組がされておりますが、いま最も手っ取り早いのが元々、より能力のある一人の人間を非常に低能率でしか雇用していない、育てないという現状に女性の問題があり

ます。女性が一旦職場を出産や子育てでリタイアし、新たな職場で働くときに、今、就労率はどんどん上がっていますが、そのほとんどが非常に生産性が低い職場での労働に勤めています。これを有資格者、あるいは正職員におけるキャリアを十分買った形での即刻そういうところに取り上げる。有資格者を資格の現場に戻す、あるいはキャリアの女性をいきなり管理職として登用する、そういった形の方向性がこの 110 ページだとなかなか見られてこない。何かこう言っているだけではなく、これには色々な問題もあり、企業の雇用の問題もあります。また一部保育なんかは国策によって給与の高額指導ということもやっています。いわゆる塾、教育、あるいは商業、経営、そういったこともいくらでも出来ますので、とにかくせつかくあるキャリアの人を元のところに戻すという方向も取り入れていっていただけたら、一番これが新しく今からつくり出すのではなく、いまあるものを使うという手っ取り早い方法だなと思っています。

【会長】

ありがとうございました。非常に重要な指摘であり、私も女性の就労率、労働参加率のところしか見れないんですね。女性が働くために、さっきおっしゃったように、やはりその環境ですね。育児だとか、保育環境だとか、ライフイベントを過ごすときにどうやってまちとして受け入れるか、そういう体制をつくれるかっていうことが大事なお話だと思いました。

【E委員】

今回の基本構想について非常に全編的によくつくられていると考えています。その一つのコンセプトとして「これが私のふるさとだ」という、そういう住んでいて、住んで良かった、これからも住んでみたい、あるいはずっと住んでおって良かったなあと、こういう、言わば外に向かっての山口に住んでいる方、市民の方がそういう誇りを持ってこういう情報を発信できるような形ということで私も考えていますので、非常にいいのかなと。その中で広域県央中核都市の関係で8つの方針をされておりますし、またその21地区の地域特長を捉えた地域づくりをしていこうということで捉えてありますので、構成の中では非常にいいのかな、全体構成は。ただ私はJAの関係でいま仕事をする中で、そういう一つの視点でこの前段にもちょっと書いてあったんですが、島根県境、阿東のほうから瀬戸内のほうの関係も、そういうことが若干書いてあったんですが、その辺のことも1,023k㎡の中に書いてあったと思う、最初のほうにですね。そういう特長的な気候だとかそういうことだけでなく、山口県も言っているように、三方が海に囲まれたじゃなくて、出ていけるっていうんですかね、そういう発想的なものも山口市の中に瀬戸内方面のそういう出ていける、あるいは山陰方面にも出ていける、観光だとか産業についてもそうですし、交通の拠点ということでご承知のように陸の玄関で新山口駅付近のことも書いてありますので、全体的には非常にいいのかなと。ただその中でもう少し先ほど言った、誇りに持てるようなところのそういう「これが私のふるさとだ」中也の詩ですが、そういう気持ちになっていただ

ければ、先ほどの人口動態もやらないような形でここにずっとまた定住していこう、あるいはここに移住して来ようという気持ちにもなるのではないか。その中で、各21地域での充実した政策、それともう一点はこの8つの大きな柱の中に今、GDPのお話もありましたが、やはり夢ばかり追っていたのでは飯は食っていけないということでもありますので、そういうことを含めて、教育・文化都市ということだけでなく、所得の関係もある程度盛り込んでいただけたら非常に目指す方向の中に今こういう農業生産の所得はこういうものに動いているからこういうふうにしていく、KPIも中に書いてありますが、例えばそういう商業関係でしたらこういうふうにしていきたい、そういう10年先のことも見据えたそういう、より具体的なことは非常に難しいかもしれませんが、そういう方向性ってというのは必要ではないかなと考えています。ひとつ宜しくお願いします。

【会長】

ありがとうございます。今、ふるさとという言葉が出てきました。ふるさとを我々がどう考えて、どうこれからつくっていくかっていうことを多分問われているだろうと思います。中也のふるさとっていうのはお前、何をしてきたんだっていじめられるような冷たいふるさとであった。種田山頭火にとってみると、ふるさとに帰りたいんだけど帰れないというようなですね。だからそれを含めて、さっきありましたが未来志向でふるさとをやはりポジティブに捉えていけるようなふるさと、あたたかいふるさと、何でも受け入れられるような、だから総合計画のキーワードはふるさとだなと、さっきから私も話を聞いていてそう思いました。

【F委員】

これを拝見させていただいて、とてもよく出来て、考えておられるということなんですが、結局人口が減少する中で他の市、他の地域、他の都市に比べて、人の取り合いということになると思うんです。その中で本市はどれくらい他の市との違いをまず出せるかということで魅力度が違ってくると思います。ここに書いてある色々な形態が色々な目で見ると、どこの市もいろいろ考えられているので、その辺は本市も負けずに考えられていると思います。

それとやはり人口のことも書いてありましたが、これを見ると人口が何年くらいでどれくらいのシミュレーションが書いてありますが、上振れもですね、下振れの範囲の中で柔軟的に政策を考えていかれたほうが将来的にもその時、思わない方向で人口減少等があってもそれに対応しやすくなるのではないかと考えました。

それとどういうことでこの山口市をアピールするかということで、例えば待機児童の問題もありますが、今どれくらい待機児童があるっていうのは、私は存じていないんですが、とにかく何かで例えば山口市は待機児童を解消したとかいうような、そういう施策のアピールがあれば色々な新聞とかニュースとかで山口市は頑張っているなど、こうやって率先して一つのところで成功させて引っ張っていければ結果的にアピールになって、人口の流入も伸びるのではないかと考えてい

ます。その辺もしっかりこれからも実際的な具体的な施策に反映させてやっていただきたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。非常に重要な指摘だと思います。さっき言われたような例えば待機児童が減ったとか、ゼロとかいうのは、やはりアピールすることがすごく大事。それがさっき出ていましたりんごの木の太陽だと私は思っていて、そうするとまた人が集まってくる、そのきっかけにもなるということで、すごく大事なご指摘ではないかなと思います。

【G委員】

私も素案については非常によく出来ているなと思っています。網羅されていますので、P ができて、いかに実行するかっていうのが、具体的に実施計画をどういうふうに立てられるのか、また進捗管理、PDCAがどうまわっていくのかっていうのが今からではないかなと思っています。

あとはちょっとお聞きしたいんですが、56 ページの成果指標、国民健康保険被保険者一人当たりの医療費が28年が432,232円で、平成34年が521,000円、39年が608,000円と増えており、少子高齢化で増えていくんだと思うんですが、普通だと現状維持が目標だと。それは難しいという何か理由は出されていますか。またKPIも、目標を何故立てたっていうのは市民に分かりやすく説明、理由を提示していただければいいのではないかなと思います。

それと、金融面、財政見通しの168、169 ページに、平成35年までの財政見通しが出されていますが、KPIでは50ページに将来負担率、平成28年基準値が36.1%という形で、目標KPI平成34年の数値を決めるということになっていますけど、将来負担率とか経常収支比率、財政の比率についても169ページに年度ごとに分かりやすく常に目標値を出していただければ市民に対してのアピールができるのではないかなと思いますのでよろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございます。健康保険について説明がありますか。

【事務局】

一人当たりの医療費の設定ですが、団塊の世代の方々が、平成36年に全て後期高齢者に移行するというので、普通に考えれば医療費が下がってくるというのは考えられるところではあるんですが、やはり第二次ベビーブームに生まれた方がまた高齢者になるということや、医療の高度化の影響もありまして、医療費が増加傾向にあるというところで、こういう数字を推定させていただいております。また国のほうも平成24年から37年にかけては、国全体の医療費にかかる社会保障給付費が1.5倍になるというような推計も出されておりますので、そのあたりでこういった値を設定させていただいております。

【会長】

ありがとうございます。

【H委員】

重点プロジェクト7の「文化・スポーツ・観光」プロジェクトですが、私が山口で暮らして思うのがやはり歴史があって、あと文化の観点で言うと美術館とか博物館とか、非常にたくさんたくさん触れる機会があり、非常に充実しているのではないかなと思います。歴史とか文化とかそれから、スポーツもレノファをはじめとしてですね、そういったコンテンツが非常にたくさんあって、珍しいSLやまぐち号など、山口って無い物ねだりしてもしようがないどころか、たくさんいいコンテンツが元々あるんですよ。これって、他の市町の方からするとすごく羨ましがられるくらいの実はコンテンツがここにあるのであまり、「新しいことを」と背伸びして考える必要はないと思います。そういったところをもう1回見つけなおすといいますか。先ほども仰っていましたが、考え方とか見方の発想の転換というか、そういうことでいけば、誇りとかそういったものというのは自ずと生まれてくるのかなと思います。

一方で、先ほどおっしゃった定住人口がまず第一、交流人口の拡大というのがその次というのがあります。優先順位というのはそれはそれで構わないと思うんですが、こういうところを出して、観光の観点で私よく最近思うのは、地元のほうで山口の皆さんが観光に来られる、市外の方に見てほしい、体験してほしいという事柄と、市外から来られる方が山口で体験したい、見てみたいというものと、ギャップがある場合があります。ということを感じることがあります。ですので、やはり交流人口拡大っていうことをやっというと思えば、マーケットインの考え方ですよ。よそから来られる方が何を求めているのかということに、柔軟に対応するという姿勢でお迎えをするということを考えられたらなと思います。

あと最後に定住人口を含めて、人口はどこも減っていくトレンドにこれから、もう既になっております。なかなか増えるっていうことは現実的にありえないですから、いずれ少ない人間でこの社会基盤をまわしていかないといけないということが現実としてあります。生産性を高めて効率的に生活ができていくという社会基盤というのを、やはりこれは10年、20年でいけば考えて、心に留め置いていけたらなと思います。ですので、便利に越したことはないんですが、隣に家があって、郵便局があって、どこかに行こうと思えばすぐにバスに乗ってっていうのはすごく便利なのかもしれないんですが、なかなか現実としてそういうものではないので、どこか生活の中、日常生活の中でも、一人ひとりが我慢をする部分というのも必要なのかな、そのようなことも思います。

【会長】

ありがとうございました。すごく重要な指摘だったと思います。124 ページに山口市の周辺の絵が書いてありますが、こんなに絵ソースの多い、それも一つのまちの中にあるっていうことがちょっと奇跡というか。温泉もあるし、ちょっと驚きなんですけど。これはやはり今いわれたような考え方でさらにそこを強くする、そういうこともすごく大事なような気がします。海から山も、文化、色んなもの

すごいコンテンツがあるので、そういうことも含めながらやはりできるだけメリハリつけて、計画を建てられたらどうだろうかと思います。

あと、来た人の考え方に、受け入れる側の考え方を何とか変えて、それはやはり外部の人の意見も聞かれるとすごくいいんじゃないかと思います。

【I 委員】

いま山口市で一番深刻な問題になっているのは人口減と、空き家の問題です。山口県はだいたい中央と地方の格差がものすごく激しいのはご存知だと思いますが、発展している地方都市というのは必ず近隣に大都市を抱えているわけですが、ただ山口県は、特殊な県でありまして、最近やはり下関と岩国の人口減が著しく酷くなっています。これは広島県と福岡県の方へ流れていっているわけです。一方、山口市も65歳以上の人口は格段に増え、若い人はどんどん出ていって、直近の調査では山口市の空き家調査をしたら約5千件くらいの空き家があって、その中で売ることができない、貸すこともできない、利用することもできない、いわゆる3悪の空き家が約2千件くらいあるという大変な状況に陥っているわけです。また一方、空き家の率というのが全国平均でいくと約15.6%と言われていて、何年か前の調査で約820万戸というのがある。ただ山口の場合は恐らく私のこの調査だと、18~20%に近づいているのではなかろうかと。これ空き家は30%を超えますと、その市町が崩壊する恐れがあるということで、実は夕張が33%の空き家で崩壊したんですけど。こういうことが一つは我々の後ろにあるということを前提で、大変よくまとめられている重点プロジェクトの2番と4番について、38ページに重点プロジェクト2 協働による「個性と安心の21地域づくり」とありまして、移住者数、農山村エリアにおける転出、それから問題はここの3番に地域行事や市民活動に、年1回以上参加している市民の割合というのが非常に重要なことで、実は山口市は自治会、町内会の加入率が異様に低いままなんです。どういう訳かと言いますと、全体的に全国的にもそういうことはあるんですが、実は町内会、自治会で、色んな作業に参加する場合、最近でしたら例えば溝掃除とか、色んな町内会の行事があってそれに参加していただきたいと。参加されない場合は山口の場合、出不精代とかで3千円とか5千円とかお金をとるんですが、実はこれが非常に負担になって、自治会活動に参加しないという人間が増えているわけです。昔は、私みたいに少し歳をとったような者は町内会でお祭りとか色んなことがありました。恐らくはほとんど家庭の人間は参加していたんですが、最近やはり介護の人間を抱えているとか、あるいは母子家庭であるとか、一人暮らしであるとか、そういうことで町内活動に参加したくても出来ないという人間が増えています。そうすると、それならそれで、費用を払ってくれと。それならもう初めから町内活動に参加しないよ、という人間が非常に最近増えています。ところが、介護の人を抱えているとか、母子家庭だとか、父子家庭とか、そういう立場の弱い人たちにこそ、町内とか自治活動が必要なのではないだろうかと。逆にそういう人に手を差し伸べていかないといけないのではないかと。

これを痛切に最近感じて宅建協会も山口市と自治会との間に協定を結んで自治会活動に参加していこうという一歩を踏み出したのが、今年の4月になります。こういうところもやはり考えていかなければならない。

それからプロジェクト4に働くなら、起業するなら山口「産業活力・地域雇用創出」とあります。その企業誘致に関する事で、従来のような企業誘致は非常に難しいのではないかと。山口県はこの全国でも特殊な中核都市をもたない都市ですので、いわゆる10万程度の人口が串団子のように繋がっている県ですので、例えば仮に私が〇〇という大きな事業を起業しようと。そうすると、山口で起業。山口は行政の中心だけど、人口は10万か。じゃあ下関か、下関は人口が30万くらいいるけど、行政からはちょっと遠い場所にある。そう考えると、例えば私が山口で起業しても10万であれば、待てよ、これは防府に支店が要るかとか、周南に支店が要るかとか、あるいは宇部に支店が要るかとか、こういう形になって、平坦線が非常に延びて行って、効率が悪いということが出てくるわけです。従って、なかなか企業が山口に来ることがなかなか難しい。最近、広島の大きな輸送関係の会社を今度山口に誘致する、これはだいたい土地が2千坪いるんだとか、やはり我々の不動産の業界にしてもなかなか情報が掴みにくいというところがあるわけです。この企業誘致に関しても、そういう形で人口の問題とかあるいは高速道路の問題だとか、色んなことを抱えながら、誘致を今後、考えていかないといけないと思うんです。目標は非常に結構です、25社、300人。これはやはり行政のほうも例えば、その関連する団体、組織のほうに情報を的確に流していただきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございました。重要な指摘で、やはり自治会という組織の繋がりがだんだんなくなってきた。私が旅行に行って思ったのが、昔はヨーロッパであれば教会とかそういうところを中心にぐるっと集落があるんですね。集落がぽつぽつと離れていて、それぞれでコミュニティをつくっています。いま、日本の場合はその集落が元々あったんだけど間に色んなものが入ってきて。私は平川にいますけど、平川は本当に新住民ばかりですね。そうすると、お互いの繋がって言うんですかね。大事なのは先ほど言われたように、そういう人たちをどう導いたらいいかっていうのが。例えば災害のときとかですね。すごく重要な指摘に感じました。

【J委員】

素人的な話で恐縮なんですけど、市民意識調査結果というのを最初にいただいたんですが、市民意識調査の中に、今後のまちづくりに必要なことというのを書く欄があってその上位1番から5番くらいまで見ると、医療や福祉サービス、充実したまちだとか、治安が良い、防災対策がしっかりしている、誰もが市内を自由に動き回れるような交通の利便性が高いこととか、産業が盛ん、働く場所がある、そういうまちがいいな、そういうのが必要なんだっていうふうな。市民のその意

識としてあるわけです。これが要するに山口市に住んでいる環境に照らし合わせてみた、みんなの希望なんだろうと思う。ニーズなんだろうと思うんですね。そのことと、今ここで掲げようとしている重点プロジェクト、それをどういったふうに結びついていて、それが目標値としてニーズの強い順番からどんな順番に並べてあるのか。そこって分かりやすいようにしたらどうかとは思いますが。

【K委員】

今日、ハローワーク山口の野村所長と午前中話をしていたんですが、山口市のほうも非常に有効求人倍率が高くなっているということで、これはフルタイムとパート合計した数字なんですけど、その中でも働きながら転職希望を考えていらっしゃる方の割合があるので、実質的には、やはりそんなに高くないんじゃないかということも言われておりました。それを観光業の中に当てはめてみますと、昨日までAという旅館にいらっしゃった方がBという旅館に移動して、それで今度またお会いするとCという旅館にいたというような、人が観光業の中で結構流れて人が動いてるというようなことがあります。一つ言うと、安定した職業ではない、ということが言えるのではないかと思います。旅行会社さんでもしかりです。Aという旅行会社からBという旅行会社に移ったりということも比較的多く見受けられるようになります。私以前、旅行会社にいましたので、皆さん旅行っていういわゆる観光旅行で外に行く、観光物見遊山的な考えがありますが、いまの山口観光コンベンション協会にお世話になりまして、今度人を呼び込む誘致をするという逆の流れの立場になりまして、こういったことが地域の経済の活性化に非常に重要な要素を占めると考えています。湯田温泉の宿泊人数も60万に増やすという計画もございますが、これが及ぼす経済普及効果というのは本当に大きなものです。そこでいま観光課さんのほうとも、山口市版のDMOというようなものをどういうふうに作っていくかということで、検討しておりますが、さっきのH委員が言われたように山口市内というのは周辺市町を含めて非常に観光主体というのが多くあります。ただそれが残念なことに、点在をしている、ということがあります。例えばSLは山口線を走って、津和野まで行く、ということもいいんですが、それ以外の列車を使ってそれ以外の地域、阿東を楽しむ、徳地で楽しむという楽しみ方をつくりあげるようなことをやっていかないと、折角の素材が全然磨かれないということがあります。山口としては、やはりこういうふうないわゆるインフラの素材を紹介するポータルサイトっていうのを構築するような組織が必要じゃないかと思います。ただ、そういった組織を立ち上げるにはやはり財源というものが需要ですが、こういったものに例えば湯田温泉の入湯税150円、それから日帰り50円とかありますが、そういったものをトップのほうからのおもてなし事業に導入すると。これ、岐阜の下呂温泉がすでにやっていますが、そういったものも検討をしていって、観光と経済の活性化をさせていくのも一つじゃないかと考えています。

最後にKPIということが、これは多分、重要業績の評価指標という言葉でない

かと思うんですが、この言葉は一般的に世間に流れると分からない人いますので、できればK P Iの後ろにかっこでその活字名を入れていただくと、よろしいのではないかとG D Pとか。それから昨日も会議があったんですが、P D C Aですかplan-do-check-actionという言葉がありますが、ちょっとその後ろに入れていただいたほうが、高齢化も進んでいますので、ぜひ宜しくお願いします。

【会長】

重要な指摘だと思います。読まれる方は多分一般市民の方なので、分かりやすいように、説明をつけるとかですね。ぜひそういう配慮をお願いしたいと思います。

【L委員】

今までにも意見があったと思いますが、今まで山口市におきましては、国体から、ねりんピック、そしてインターハイと、大きな全国大会規模の大会が開催されています。そういった中で、イベントを通じての交流というのは今までずっと出来ていたと思っていますが、今後は特に49ページに書いてありますように、山口市においては卓球の石川選手、柔道の山野選手、サッカーの久保選手というトップアスリートがいらっしゃいます。それから、現在水泳についてはスペイン代表チームの事前キャンプ地に決定しています。そういった中で、国内外でも、海外の方との交流がさらに今から求められるのではないかと考えています。それで、またレノファ山口さんにおかれても、まちづくり、そして交流人口の増加にご尽力をいただいていますので、お互いに連携しながらいけば、ここに目標があります目標値に近づけるのではないかと考えています。

それから地域のごことは地域づくり協議会で解決していくということですが、山口市は海水浴が出来るところ、スキーが出来るところ、と幅広い地域です。地域の資源を生かしたスポーツイベント等の交流ができればと思っています。

【M委員】

まずプロジェクト7の2に挙げていただいていますますが、私どもサッカーのチームで維新公園を中心にお客様に来ていただいて、試合を年20回開催させていただいておりまして、地方創生と一緒に全市町さんと一緒にやっというスタンスでいま進めているんですが、こういった取組を今回お配りした資料の01と書いたページの左下の部分を各市町さんを中心に比較的と言うとスポーツ振興というのは当然なんですが、観光商業振興と、健康増進と書いてあるところを各市町さんと取組をさせていただき始めました。一方で来年から、維新公園での試合を、サッカーっていうのはだいたい2時間試合があるんですが、2時間実質稼働していますが、約5時間くらい稼働としてここに書いてある観光商業振興、健康増進といったようなスパイスを入れた場所。具体的に申し上げますと、各市町さんの観光ブースですか、それから現在出ていますがそこに高齢者という言葉が適切か分かりませんが、ご高齢の方を対象とした健康増進ですか、それから結果的にコミュニティづくりに繋がるようなスペースをつくったりして、この中身で言いますと、重点プロジェクトの5に近いような形の連携をしていただければ、我々

市化するというサービス業の充実みたいなどころからある程度カバーできる、補えるってところが出てくるのではないかなという部分では県央連携中枢都市ってところの取組ってのはもうちょっと触れてもいいのかなっていうことを率直に感じた次第です。

ただ個人的には重点プロジェクト7「文化・スポーツ・観光」ですが、このKPIの指標の中に、この1年間に地域のまつりへ参加したり、市内の温泉を利用した市民の割合という項目に非常に期待しており、特に市内の温泉を利用した市民の割合という数字がどれくらいなのかと、それをどれくらいに引き上げられるか。あるいは一人ひとりが年に5～6回は利用して欲しいなというふうに思っています。

【0 委員】

重点プロジェクトの関連で2点述べさせていただきます。まず、重点プロジェクト2「個性と安心の21地域づくり」についてです。山口市は面積が広くて、中山間地域、農山村地域を多く抱えています。こうした地域では、計画にも掲げてありますが、総じて人口減少、高齢化が進行し、担い手不足あるいは集落機能低下などが進んでいますので、日常生活に必要な機能やサービスを集約した生活拠点づくり、これが大変重要になってくると思っています。こうした拠点づくりを進めるに当たっては、やはり地域づくりのリーダーとなる人材育成が不可欠で、例えば地域おこし協力隊のような外部からの人材などさらに進めていただくとともに、地域の住民の方が主体となって専門家や大学生等、若い方々にも参画していただいて、地域の将来バランスを作成する。それに基づいて、地域の関係色を協力、役割分担しながら取組を進めていく仕組みというのが大切になってくるだろうと思います。

また、県では中山間地域における拠点づくりやネットワークの形成といった取組を「やまぐち元気生活圏づくり」として市町の皆さんと連携しながら支援をしております。人材育成やアドバイザーの派遣、基盤整備に対する助成などを実施しておりますので、こうした制度を活用していただきながら、生活拠点づくりを進めていただければと思っていますのでお願いします。

2点目は重点プロジェクト5「健康長寿のまち」に関してですが、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組についてです。皆さんご承知のとおり、地域包括ケアシステムというのは、介護や支援が必要な高齢者に対して医療・介護・予防・住まい・生活支援に関するサービスを行政や医療、介護の関係者だけではなく、地域住民や社協、老人クラブ、ボランティア、自治会など、そういう地域の様々な視点で連携して、地域ぐるみで提供していくものでございまして、これは安心して暮らせる地域づくりを進める上で基盤になるんだろうと考えています。こうしたことから、市内21の地域拠点づくりと連携しながら、それぞれの地域における高齢者の実態やニーズ、あるいは地域資源の状況など、地域の実情を踏まえた地域包括ケアシステムの構築をシステムの中核となります地域包括ケアセンタ

一の機能強化、あるいは設置拡大を図ることによって進めていただけたと思っています。また、システムが円滑に機能するためには、それらを支える人材確保が不可欠です。特に介護職について、賃金が安くて重労働というイメージが強くて、若い人が避ける傾向にあり、将来的にも大幅な人材不足が見込まれています。こうしたことから、ぜひその介護分野のイメージアップや理解促進に向け、学校等と連携して、いま小中学生等、若い世代を対象とした介護職場の見学や体験活動などを実施していただくとともに、離職した介護人材の再就職支援や、いま専門家が不足していますので生活支援サービス等で高齢者の担い手としての参加促進などに積極的に取り組んでいただけたらと思っていますので、至急お願いします。それから、確認を最後にさせていただきたいと思いますが、1点目は25ページの(1)あらゆる世代が 健やかに暮らせるまち の3番目の・高齢者人口が云々とありますが、人口は要るんでしょうか。どうなんですか。それと、2点目は36ページですが、KPIで湯田温泉の宿泊者数が基準値54万人で目標値60万、これは増加しているんですが指標の推移は維持となっていますが、どうなんですか。目標値は上がっていますし、交流人口も上昇ですので、スタンスとしてもここはぜひ増加ということで。よろしくお願いします。

【会長】

地域づくりの拠点だとか、介護の人材育成っていうのはすごく大事な話で、特に山口市にはたくさん大学もございまして、上手に連携されると、学生も動員できるかもしれない。それから最後の質問で簡単に答えられるものがあれば。

【事務局】

高齢者人口は誤植でございました。人口 の部分を削除させていただければと思います。

そして湯田温泉の宿泊客数、ご指摘いただいたように、人も伸びております、そして一人当たりの単価も伸ばそうという議論もありますので、こちらも増加という表現になるように、また検討させていただければと思います。ありがとうございます。

【P委員】

事前にこの資料を送っていただきまして、ずっと目を通しましたので、4点くらい私の意見と質問を兼ねて発言します。まず基本構想の中で、地域拠点の構築で総合支所の機能強化を盛られたことは非常に良かったのではないかと思います。もう1点O委員が言われましたが、私も25ページの目指すまちの姿の中の高齢者人口については主語が明確でないなあと感じていましたので、これは解決しました。次に基本計画、重点プロジェクト1 魅力あふれる県都づくり「広域県央中核都市づくり」の中の36ページの一番下に、中心市街地等の活性化ということで、中心市街地活性化を図る計画の策定という表記がありますが、それ以外の山口駅通りのパークロードをどうするかとか、湯田温泉をどうするかとか、亀山公園どうするかとか、小郡都市核についてはどうするかっていうのが少しづつ何か書い

てあります。こういうことをして、こうしますって。中心市街地の活性化については行政として何の施策があるのか。ちょっとお尋ねしたいというのが1点と、それから、もうちょっとその辺を書けるのであれば、この中心市街地活性化の中にもどういうことをして活性化するよという表記が必要なのではないかと。他のところは少しずつ書いてあります。ということをお私に思いました。

それから次に39ページですね。協働による「個性と安心の21地域づくり」の中で、2協働によるまちづくりに住民自治の強化や、地域づくり協議会の体制強化に向けた支援というのがあります。地域づくり協議会というのはどういうことでつくられたのか、私は分からないんですが、なんか仲良しグループでつくっているのではないかと。やはりその辺の体制も、設立についてもっと幅広い意見が聞けるような体制づくりが必要だと思うんです。そうしないと、さっき出てきた、地域づくりの方向性というのが極一部の人の意見になってくるのではないかなという気がしますので、この辺についての体制についてもやはり評価されるのであれば、体制づくりそのものについてももう少し検討がいると思います。

次に44ページの生涯にわたって元気に暮らす「健康長寿のまち」の中の、1の(4)地域医療体制の充実の中に、へき地医療体制の維持確保。確かにへき地医療という言葉はあるんですが、この総合計画の中で、拠点を都市拠点、地域拠点、生活拠点と3つの拠点にしています。このへき地医療という、へき地というのはどこに当たるのかっていうのが明確でない。むしろ、地域拠点の医療体制の強化という書き方のほうがいいんじゃないかという気がします。というのが、この計画は今から10年間計画するわけです。ある地域によっては今の開業医が80歳を超えている人がおられる。これが10年経つと90歳になる。そのまま存続されるのか分からない。無医村になるようなところもあるのではないかとこのことを考えると、そういうことを含めて地域医療の体制の強化っていうのが必要なのではないかとこの気がします。

それから47ページの2行目に、避難所運営体制等の充実というのがあります。運営体制も必要なんですが、避難所そのものの数の充実というのが必要なのではないかと。というのが私は市の統計調査員をやっているし、先日も国の就業基本調査があり、各家庭をまわりました。今頃は高齢者になって身体の不自由な方、あるいは歩くのもままならないような人がたくさんおられるわけですね。その中で、長生きしなさいよという話をしますと、最近は災害が多いからすぐそういう避難所の話になるわけですね。そうすると私なんか1キロも2キロも離れたところは行かないよという話がたくさん出てくる。だからもう少しそういう高齢者あるいは身体が不自由な方も行きやすいような避難所そのものを一般のところを利用していいので、増やしていくというのが大事なのではないかとこの気がします。

【会長】

非常に重要な指摘がたくさん届きましたけど、中心市街地の活性化に関して具体

的な施策があれば、ご紹介ください。

【事務局】

こちらの中心市街地活性化が、空き店舗の対策支援であったり、まちなか居住だったり、実は他のプロジェクトに記載しているというので、重複感があったので省略したという部分もあります。確かに分かりやすさ、伝えやすさというところも考えまして、少し再掲という形でも表現として伝わるように工夫させていただければと思います。

【会長】

地域づくり協議会については、これは回答求めませんが、そういう組織の見直しも含めて長期的な検討をしていただくといい。それからへき地というのはあまり良い表現でない私も気がします。

【事務局】

そうですね。へき地医療、行政用語をそのまま使ってしまったという辺りもありますので、やはり市民が見ていただけるように、そして言われたようにへき地医療の概念そのものも、無医村地区あるいは、地域医療の拠点づくりも含めて、へき地医療の概念も広がってきていますので、少し伝わりやすい言葉に修正させていただきます。

【Q委員】

目標となる将来都市像を読ませていただいて、生まれ育った方々が山口市をふるさととして誇りをもてるよう、また一時的に山口にいらっしゃる方にとっても、またもう一度帰って来たい場所だと思っていただける第二のふるさとになるという明るい未来を想像することができました。

次に暗い悲しい話なのですが、先ほどから何回か出てきた湯田温泉の宿泊客数について 36 ページなんですけど、湯田温泉のホテル、旅館の施設数は30年間で1/3以下になっています。その中でも現在旅館という屋号で実質営業されていらっしゃる小規模旅館は5軒しかありません。その中で後継者がいるのは1軒です。なので、この総合計画が達成される頃にはもしかしたら0軒から1軒になっているという今の湯田温泉の現状があります。ただ、宿泊客数にはそういったことは現れてこないの、そういった面でやはり旅館が減るということは湯田温泉の衰退に繋がるのではないかと思うので、ぜひ皆さまにも宿泊客数ということで目を光らせていただきたいのと、頼りない後継者がいたらぜひ発破をかけていただきたいと思います。私はしがらみがない中で商売をさせていただいているので、K委員がおっしゃったような新しい挑戦もどんどんできたらいいなと思います。

【会長】

野原別当も閉じたし、西村屋も、非常に残念なニュースがたくさんあります。それが湯田温泉全体のやはり心配が繋がらないんですね。ぜひ目を光らせていただくといいかもしれません。いま山口大学もカピバラをつかってお湯の効能を調べたり、色んなことをやっています。何かやはりこうやってアピールができるよう

	<p>にやればいいなと思います。</p> <p>一応全員の方に伺いました。多種多様な御意見をいただきました。ぜひ、この部分を盛り込みながらですね、最終的に1月に仕上げていただきたいと思います。私聞いていて、やはり27ページに赤字で書いてあります、本市全体の発展を目指す、これは非常に重要なキーワードで、都市核だけが良くなればいいってことではなく、どこにも目を配りますよっていう決意をここに書いてある。それから29ページには、都市核というものを明確にされたということで、山口都市核と小郡都市核は、このような形で都市核をつくっていくという宣言をされた。それから、その下側の赤い字で書いてありますけども、地域のことは地域で解決できる山口らしい地方分権を確立する。山口市はあまりにも大きいすぎて、なかなか目が届かないところもあります。地域の抱える問題をあると思いますから、予算も含め、地域である程度自主的に動けるような、そういう体制をつくっていくといった、新しい御提案のように思いました。そして、先ほど言いましたけど、山口市の絵が描いてありまして、124ページですか。このような山口が持っているリソースと言いますか資源を上手に使う。みんな同じことをやるのではなくて、地域ごとに特長を出したまちづくりというものをそれぞれ地域で考えるということもすごく大事なことだと思います。行政は行政として、当然頑張ってもらうんですけど、ふるさとというものを我々がどう考えるか、ふるさとは自分たちで何とかしていこう。温かくて、皆が帰って来られるような、いつも待てるような、そういうふるさとをやっぱり、我々は目指していこうというような意思表示というか、総合計画ではないかと私は思いました。</p> <p>それでは、今後の日程について、事務局よりお願いします。</p> <p>【事務局】</p> <p>資料3にて、小中学生絵画コンクール表彰式、入選作品展示について説明 次回、第7回協議会は、1月31日の14時から防長苑2階にて開催</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 これまでの協議について ・資料2 第二次山口市総合計画（素案） ・資料3 資料編 ・資料4 委員名簿 ・資料5 配席図 ・資料6 意見書
<p>問い合わせ先</p>	<p>総合政策部 企画経営課</p> <p>TEL 083-934-2747</p>